

【2020年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
心理面接法		選択	2	3,4	後期
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
瀧口 綾 他	B305	atakiguchi		木曜日 12:10~13:00	
授業の目的・概要	<p><目的>コミュニケーションの基本的意義を理解した上で基本的技術を身につけ、さらにカウンセリングの概念や意義等基本的な知識や態度を理解し、カウンセリングの面接技術の学修を踏まえたコミュニケーション技法を身につけ、多様な関係性に対応できることを目的とする。</p> <p><概要>コミュニケーション技法について、ロールプレイやグループワーク等で体験的に学修する。</p>				
学習上の助言	ロールプレイやグループワークは登校(対面)授業時に行う。				
教科書	特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。				
参考書	特になし。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	コミュニケーションの基本的意義を理解し、基本的技術を身につけることができる。			HSU(1)、心(1)、(2)	
②	カウンセリングにおける概念、意義等の基本的な知識や態度を理解できる。			HSU(1)、心(1)、(2)	
③	カウンセリングの基本的な面接技術を学び、コミュニケーションに活かす技術を身につけることができる。			心(1)、(2)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	コミュニケーションの基本的理解①	同時双方向型授業	授業で学んだ内容を整理し Teams で提出する。	1	
2	コミュニケーションの基本的理解②	同時双方向型授業	授業で学んだ内容を整理し Teams で提出する。	2	
3	コミュニケーションの基本的理解③	同時双方向型授業	授業で学んだ内容を整理し Teams で提出する。	2	
4	コミュニケーションの基本的な技術についてロールプレイ及びグループワークを行う。	講義・演習	ロールプレイ及びグループワークのための準備を行う。	9	
5	コミュニケーション技法の実際①	同時双方向型授業	授業で学んだ内容を整理し Teams で提出する。	2	
6	コミュニケーション技法の実際②	同時双方向型授業	授業で学んだ内容を整理し Teams で提出する。	2	
7	コミュニケーション技法の実際③	同時双方向型授業	授業で学んだ内容を整理し Teams で提出する。	2	
8	コミュニケーション技法についてロールプレイ及びグループワークを行う。	講義・演習	ロールプレイ及びグループワークのための準備を行う。	9	
9	コミュニケーション技法の応用 ①カウンセリング理論の理解と技法について学ぶ	同時双方向型授業	授業で学んだ内容を整理し Teams で提出する。	2	
10	コミュニケーション技法の応用:②カウンセリング理論の理解と技法について学ぶ	同時双方向型授業	授業で学んだ内容を整理し Teams で提出する。	2	
11	コミュニケーション技法の応用 ③カウンセリング理論の理解と技法について学ぶ	同時双方向型授業	授業で学んだ内容を整理し Teams で提出する。	2	
12	カウンセリング理論に基づく面接技術についてロールプレイ及びグループワークを行う。	講義・演習	ロールプレイ及びグループワークのための準備を行う。	9	
13	事例を通してコミュニケーションを理解する①	同時双方向型授業	事例を通して学んだことを整理し Teams で提出する。	2	
14	事例を通してコミュニケーションを理解する②	同時双方向型授業	事例を通して学んだことを整理し Teams で提出する。	2	
15	これまでの学修内容を整理し、ロールプレイ及びグループワークを行う。	講義・演習	ロールプレイ及びグループワークのための準備を行う。	12	
試	レポート試験 達成度評価・評価のポイントを参照				

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	40	30	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	0	10	5	0	5	20
	思考・推論・創造する力	0	10	5	0	5	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	0	5
	発表・表現伝達する力	0	0	5	0	5	10
	コミュニケーション力	0	0	5	0	0	5
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	10	20
	問題を発見・解決する力	0	10	5	0	5	20
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	レポートのテーマについては、授業内で発表する。評価は、内容（聞かれたことに答えているか、授業内で行った自分の意見を述べているか）、文章の構成、誤字・脱字等で行う。				提出されたレポートは全体の講評を行いコメントをつけて Teams 上で返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①	✓	登校授業時に実技演習を行い、積極的参加度、技術、取組みの姿勢を総合的に評価する。				ロールプレイ及びグループワーク後に講評及び解説を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	毎回講義後に小レポートの提出を求める。同時双方向型授業では、授業内容に関して理解したことや疑問に思ったこと、講義・演習授業ではロールプレイ及びグループワークを実施した体験の振り返りから考えたことについて記述してもらう。				毎回授業時に個々にコメントを加えた上で Teams 上で返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>*Teams を使った同時双方向型授業及び 4 回の登校授業を行います。同時双方向型授業では、課題ダウンロードを行いますので、授業時は通信容量が無制限の Wi-fi 環境を推奨します。登校授業に関しては大学が示した感染症予防対策の指針を遵守すること。感染症予防対策の観点から、教員の指示に従わない行動をとった場合には受講を認めないことがあります。その場合、授業は欠席として取り扱います。</p> <p>*今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更もあります。</p> <p>担当教員：◎瀧口 綾、鈴木 真吾</p> <p>教員の実務経験：臨床心理士資格を有したのち 19 年以上の心理相談業務の経験を有する。 実践的授業の内容：臨床心理士としてのこれまでの専門性と経験を講義に生かし学生に教授する。</p>							